○後免町商店街○

# 土曜夜市オープン

## 3000人が繰り出す

人気を集めたバナナのたたき売り

後免町商店街の沈滞ムードを吹き飛ばし、街の活性化を――と、十数年ぶりに『土曜夜市』が復活しました。

これは、市商工会後免支部などが主催し、商店の青年層を中心に準備を進めてきたもので、商店街の約二百五十㍍の区間を歩行者天国にして「おもしろ広場」と銘打って約三十の夜店が立ち並ぶほか毎週、多彩な催しが開かれることになっており、初日の七月二十六日には、商店街に約三千人の市民が繰り出しました。

午後六時、吉本太志男助役や吉村雅男商工会長らがテープカットしてオープン。鳴子踊りなどでムードを盛り上げました。日暮れになると、ずらりと並んだ祭りちょうちんが情緒たっぷりに夜店を照らし、家族連れなどで大にぎわい。うなぎ釣りやバナナのたたき売りには、どっと人の輪ができていました。

また特設ステージでは、手品や人間猿まわし、ジャズダンスなどが行われ、訪れた人たちから盛んな拍手が送られていました。特に日吉神社での「おばけ屋敷」は長い行列ができ、子供たちに大人気。そのほか、市商工会婦人部によるもちつきも行われるなど、盛りだくさんの催しが繰り広げられました。

なお、土曜夜市は八月二十三日まで毎週午後六時～九時（雨天は中止）。少しずつ変わった催しが開かれます。

愉快な人間猿まわしに観客から盛んな拍手

# 稲刈りに挑戦◇◇

## 稲生小の五、六年生

夏休みが始まったばかりの七月二十九日、稲生小学校（吉川裕校長）の五、六年生六十八人が、汗びっしょりになりながら自分たちが植えた稲の刈り取りをしました。

これは、市米消費拡大推進連絡協議会が米の消費拡大の一環として、田植えから刈り取り、試食を通じて、稲の生長や農家の苦労を子供たちに知ってもらおうと、市農協、南国農業改良普及所、市4Hクラブ連絡協議会の皆さんの協力を得て、今年の四月に福重泰男さんの水田十㌃を借りて、子供たちが極わせ品種のフジヒカリを植えました。

そして子供たちは、草取りをしたり肥料をやったりして稲の生長過程を観察してきました。

この日、稲刈りをした子供たちの中には農家の子供もいますが、機械化が進み、かまで稲を刈るのはほとんどの子供が初めて。まず4Hクラブの皆さんが指導した後、かまを持って田んぼに入り、ザック、ザックと一生懸命に稲を刈り取り約五百㌔を収穫しました。

早速その場で農家の人に脱穀してもらい、出来上がった米を見て子供たちは大喜びでした。

収穫した米は新学期の給食に利用したりパットライスにしたりするそうですが、子供たちはあらためて稲作の苦労を知ったようです。

初めてかまを持ち、稲刈りに挑戦する子供たち